

# 事例研究報告

地域の中学校から進学してきた高等部生徒の  
自己発信を増やすためのアプローチ

# 児童・生徒の実態

## <個別の事例に対する取組>

- ・高等部生徒
- ・地域の中学校から進学してきた。
- ・どのような場面でも褒められると「わたしなんて全然です」と答えることがほとんどである。
- ・5月中旬頃まで、自分の興味のある分野（ゲーム、アニメ）以外の話題では会話に入ることができず、笑顔も少なかった。
- ・6月中旬現在では、友だちや先生との会話中に笑顔が増え、知らない内容についても「そうなんですか」などと相づちを打つようになっている。

## 保護者の願い

- ・社会で生活するために必要な力をつけてほしい。
- ・友だちと出かけられるようになってほしい。

## 教員の願い

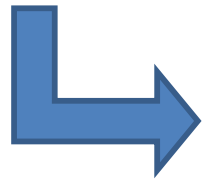
- ・自分の考えや思いを発信できるようになってほしい。
- ・家庭や社会生活で必要となるさまざまなスキルを身につけてほしい。

# 指導目標の案

- ・自分から朝の挨拶ができる。
- ・困った時に自分で状況を伝えることができる。

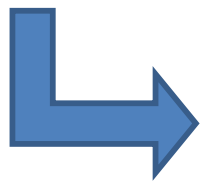
# 指導目標に関する現状

- ・自分から朝の挨拶ができる。



- ・目配せの合図を送ると、必ず挨拶をすることができる。
- ・目配せの合図無しで、挨拶をすることは皆無である。

- ・困った時に自分から言葉で状況を伝えることができる。



- ・困ったことがあると、固まったり、教員に視線を送ったりする。

## 助言内容

(生徒) 言わなくても分かってもらえる。



(教員) 言われなくても察してしまう。

 共依存の関係が発生している。

- ・援助要求のテンプレートを作り、場面を設定して援助要求の出し方を練習する。

# 助言を受けての見直し

## 指導目標

- ・「困った時に自分から伝えることができる」

## 取り組み方

- ・困った時の伝え方の手順をつくりパターン化する。作業学習の中で不測の事態を設定して援助要求の練習をする。

# 指導の手続き

- ・困った時の伝え方を学習する。  
(学年全体の生活単元学習で実施)

ワークシートを使用して、4つの台詞を考える。(パターン化)



生徒同士でワークシートを見せ合い、様々な言い方を知る。



教員による悪い例、良い例の手本を見た後、生徒によるロールプレイを実施。お互いに確認し合う。



作業学習の時間で練習を重ねる。

# 記録方法と記録

・伝え方を学習していない段階で不測の事態が起こった時、どのように対応するか、困っていることの伝え方、その時の様子について記録し、ベースラインをとる。

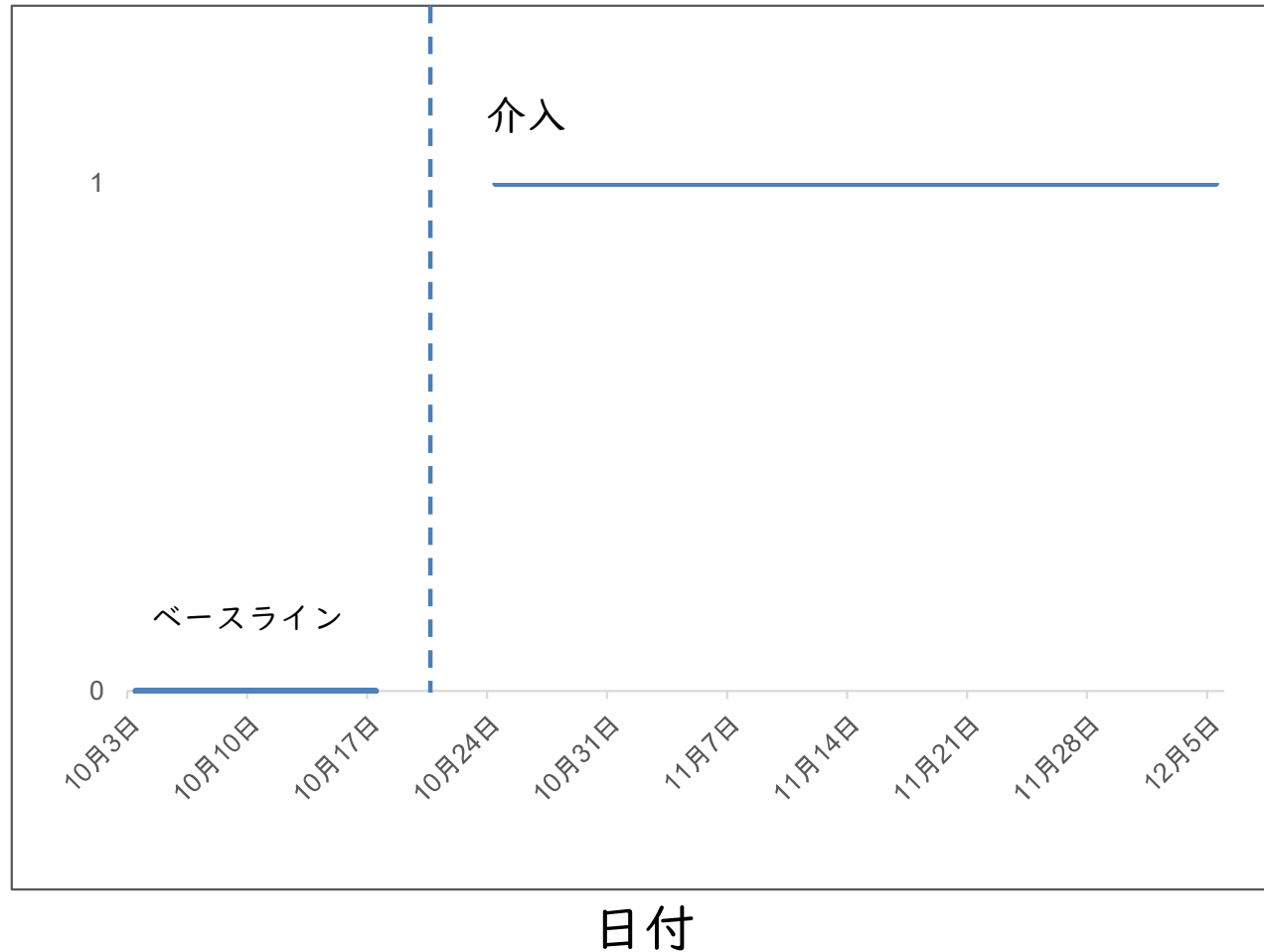


・学習後、練習を重ねる中で、困った時の対応がどのように変化していくか、また様々な場面でパターン化された手順をつかって対応できるか記録していく。

# 指導の成果

援助要求の具体的な台詞を学習することで、自分から伝えることができるようになった。

できた：1  
できなかった：0



結果：自分から援助要求ができたか否か

# 指導前の記録

- ・作業学習（流通）において実施。
- ・不測の事態：手洗いの手順を間違えた。
  - ：商品の袋詰めに使うビニールが無くなった。
  - ：商品の個数を間違えて袋詰めした。
- ・ベースライン期ではいずれの場面でも、うろたえた様子で教員の方を見る、「どうしましたか？」という問いに「えっと…」と答える様子が見られた。

# 指導後の記録

・手洗いの手順を間違えた。

→ 「お仕事すみません。今よろしいですか？」  
「手順を間違えたので、やり直していいですか？」  
「(相手の答えに対して)分かりました。」  
「お仕事すみません。ありがとうございました。」

・商品の個数を間違えて袋詰めした。

→ 「お仕事すみません。今よろしいですか？」  
「数を間違えてしまいました。どうしたらいいですか？」  
「(相手の答えに対して)分かりました。」  
「お仕事すみません。ありがとうございました。」

・商品の袋詰めに使うビニールが無くなった。

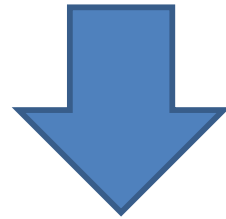
→ 「お仕事すみません。今よろしいですか？」  
「ビニール袋が無くなったので新しい袋をください。」  
「お仕事すみません。ありがとうございました。」

# 指導の成果

- ・困った時に自分から言葉で発信することができるようになった。
- ・以前は日常会話でも答えに詰まった時、黙ったり、笑ってごまかしたりしていたが、何かしら返事ができるようになった。

## 今後の課題

学校以外の場所や、教員、学級の友だち、学習グループ以外の人とでも、援助要求をしたり、日常会話をしたりすることができる。



- ・現場実習が予定されている。
- ・施設職員や他の利用者からの質問に答えられるように、いくつか質問を想定してカードゲームにして練習している。

# 成功のポイント

## ◎グループ別学習

一緒に学習をすすめてきた仲間と取り組んだ

## ◎学習活動の手順化

想定場面を区切る→台詞が明確  
→教員のフィードバック

成功体験が少なく不安の強い生徒に、安心できる環境を設定し学習をすすめることができた。